

友史会 2026 年 6 月例会
「駒ヶ谷と飛鳥千塚古墳群」

2026 年 6 月 21 日(日)

案内 平井洸史 榎考研調査課主任研究員

行程：集合、であいのみち公園→玉手山古墳群南部→杜本神社→大谷古墳群→三ツ塚古墳群→グレープヒルスポーツ公園→切戸 1 号墳→鉢伏山西峰古墳→飛鳥千塚 E 支群→飛鳥戸神社→観音塚古墳→飛鳥千塚 A 支群→近鉄上ノ太子駅、解散

感想文「6 月例会だより」

例会当日朝は、前日の小雨模様の空とは一転、薄日のさす曇り空の例会日和になった。駒ヶ谷駅近くのであいのみち公園で集合、今日は平井洸史先生のご案内で『駒ヶ谷と飛鳥千塚古墳群』を巡る。

飛鳥川を渡り工業団地を通り抜けた駒ヶ谷古墳公園で玉手山古墳群南部に属する三基（駒ヶ谷北古墳、狐塚古墳、駒ヶ谷宮山古墳）の前方後円墳とその北に他十基の前方後円墳が古墳時代前期後半 4 世紀頃から中期 5 世紀頃までに築かれた。飛鳥川・石川を挟んだ西側丘陵に古市古墳群が造営される時期と重なったことに影響するのだろう。式内社の杜本神社でお参りと水分補給、その近くの「河内ワイン館」に立ち寄り、かなわず残念に思いながら、グレープヒルスポーツ公園へのきつい上り坂を進む。公園駐車場付近の斜面に大谷古墳群の内、最も大きな墳丘と両袖式横穴式石室を持つ大谷 2 号墳は、遺物にミニチュア炊飯具や子持器台の土器類が出土し、石棺片や木棺に使用された鉄釘も出土したことから初葬に木棺、追葬に石棺を用いた事が推測される。公園では昼食後、切戸 1 号墳には封土がなく、むき出し状態の石室は南側に開口する横穴式石室、天井に大きい石が載せてあった。土師氏との関わりを示す亀甲型陶棺の破片や脚付子持壺が出土し、耳環、鉄刀、鉄鏃、金銅装馬具等の副葬品が出土した。北側が一望できて素晴らしく眺めがよい。

鉢伏山西峰古墳は鉢伏山から西に伸びた尾根に築造された古墳、横口式石槨が西向きに開口して前室と羨道を付設する。極めて精巧に加工された切石で造られている。岩盤を堀削した石材をチョウナ、ノミで粗く形を整え、ノミや金づちで表面を叩いて平らに仕上げ、更に表面を滑らかにするために砥石で磨く技術は、百済に系譜があると考えられる。横口式石槨の造営は、大化の薄葬令（646 年）による影響というより、薄葬令それ以前から南河内や近つ飛鳥の周辺で育まれてきた埋葬施設だったのか。観音塚古墳の埋葬施設も横口式石槨、前室と羨道を付設する。周辺の石英安山岩の切石を用いた切石造りで、前室側壁は、すき間がほとんど無いように切石を組み合わせている。その高度な加工技術と石積み技術は、百済に系譜を持つものと思う。6 世紀後半以降 7 世紀にかけて群集墳の造営が盛んになる。飛鳥千塚古墳群では渡来系漢人氏族と関わりが深いミニチュア炊飯具が多く出土していることから、多くが百済を経由した渡来系漢人氏族の古墳と考えられる。

令和3年9月例会の『磯長谷と一須賀古墳群』と7年6月例会の『高井田山古墳と周辺の群集墳』そして今回8年6月例会『駒ヶ谷と飛鳥千塚古墳群』で漢人系・百済系・高句麗系等の渡来人からもたらされた諸々の技術と思想を倭人が受容し如何に発展させたか、させるかという感、現在未来に通じるハーモニーとコンセプトだと思う。『王陵と群集墳』というひとつのテーマを三回の例会でいろいろな角度から多面的に視ることの面白さと大事なことを教えていただきました。平井先生、ありがとうございました。

奈良市 原崎多世子

[記録写真]



駒ヶ谷集合、であいのみち公園



玉手山13号墳



大谷古墳群



切戸 1 号墳



鉢伏山西峰古墳



観音塚古墳



横口式石槨



観音塚古墳付近からの眺め

以上